

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立塩冶幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・各担任は教育要領に基づき、教育課程を見直し指導計画に基づく保育を実施し、反省・考察を行い学級経営に努めている。 ・職員、保護者の95%以上がA,B評価をしていることから、各担任が教育目標や園の特色を生かした学級経営に努めていると評価されている。	4	4	幼児の発達の過程や保育の在り方を全職員で振り返り、さらなる教育課程のねらいや内容の確認、改善につなげるようにする。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	・日々の保育記録を元に幼児の発達を理解し、記録分析したものを月の指導計画に生かしていくことを継続している。指導計画を基にして補助教諭と連携を図り、共に課題を捉えられるよう担任は工夫を重ねている。	4	4	今後も職員会議、研修などで共通理解を図る。来年度も「年中児発達事業アンケート」「おはなしノート」「個人懇談」「行事の感想・アンケート」を活用し、保護者と共に子どもの成長の姿を共有していく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・特別な支援を要する幼児や外国籍園児が、幼稚園において基本的な生活習慣を身につけ、自立できるようにまた友達とのかかわりの中で生活する喜びが味わえるように担任は、保育を構想している。また補助教諭、ヘルパーと共通理解を図り、同じ視点で指導が行えるように努めた。	3	4	特別な支援を要する幼児の援助の在り方を職員・保護者と共通理解を図りながら探っていきたい。外国籍園児の支援においては、言語が通じないことから保護者とのコミュニケーションがもちにくく、子どものよりよい育ちを援助していくことができない。JICA日系サポーター研修制度を利用するなど行政と共に改善できるよう取り組んでいきたい。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・各担任は、人権・同和教育目標を学級経営におろし、それを基底にすえた保育に努めている。A・B評価が100%であることから職員が日頃の保育で幼児の人権意識の芽生えを培う保育活動に取り組んでいると評価されている。	4	4	今後も研修を積み重ねて人権感覚を磨き、保育活動における様々な場面で幼児に人権意識の芽生えが培われるように支えていきたい。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・昨年度から引き続き、コロナウイルス感染症対策を講じた行事を行った。変更や行事のやり方については、早めに保護者に連絡し、安心して参加できるよう心掛けた。また行事を行った後に保護者から寄せられた感想、意見を職員で検討し、次回へ生かしている。教職員が100%、保護者の95%がA,B評価をしていることから、一定の評価を得ていると言える。	4	4	行事が日々の保育と連続性を持ち、個々の成長や学級集団の成長につながっていくよう内容を精選し、指導計画の中にきちんと位置付けて保育を行うようにする。今後も新型コロナウイルス感染症対策を取りながら工夫していきたい。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・塩冶小学校校区の連携については、5月に塩冶小学校区校長・園(所)長会・6月に保幼小連絡会が行われた。コロナウイルス感染症のため保幼小交流の日は、実施されなかったが、新一年生進学・年中児発達相談事業に関わる連携を図った。8、11、2月に小学校教諭が本園で研修に取り組み、子どもと共に生活する中で、幼児理解への理解、本園職員の小学校教育への理解・連携を実施することができた。	4	4	今後も交流や意見交換を行い、幼児・児童の実態や指導のあり方などについて理解を深め、小学校への滑らかな接続に努める。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・地域との連携は、コロナ対策により積極的な取り組みを行うことはできなかった。未就園児教室は、年間9回(1回は感染症対策のため中止)実施し、参加される大半が入園されることから効果は見られていると思われる。	4	4	今後もコロナ感染症対策を行ないながら幼稚園、保護者、地域との連携の推進を図っていきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・日頃の保育実践から各年齢における「環境の構成と援助の工夫」について協議し、幼児理解に努め、環境の構成と援助、保育の再構成につながるよう努力した。	4	4	職員同士で研究について話し合う中で、保育計画や環境構成について見直していくことの必要性を感じた。今後も各学年における子ども達の「学び」をしっかりと捉え、保育に生かすことで一人一人の教職員の資質向上につなげていきたい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・正規職員、会計年度職員合わせて21名が在籍しており、連携することの難しさも感じているが、評価がA、B評価合わせて100%であることから協働しての園務遂行が行われていると思われる。	4	4	園務の在り方について職員で話し合い、スリム化を図ったり、担当を明確にしたりして協力し合える体制づくりを整えたい。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・毎学期、避難訓練を実施しており、その様子を園だよりで伝えている。また、引渡し訓練も実施し、緊急時の園児の安全確保に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症対策については、新情報を常に取り入れ、状況に応じて対処した。多人数学級においては、保育室を2つに分けたりしたが、一人の担任が2保育室の保育をすすめていくことに関しては、限界があると感じた。	4	4	来年度も1クラス25名以上の学級が存在する。1名の担任が保育し、子ども達の健康と安全を図るために補助教諭の配置などで対応することとなる。引き続き、子どもの安全確保のための要望は、行政に行っていきたい。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・安全点検の日を決めてチェック表を基に点検すると共に、毎月草取りボランティアの日を設け保護者の協力を得ながら取り組み、環境整備に努めている。築30年以上経過したことで保護者も園舎老朽化を感じている。今年度は、行政に積極的に働きかけ、大規模工事である屋根シートや園門の改修を行い、子ども達が安全に過ごせる環境整備に努めた。	3	3	・点検チェック表を活用し、毎月の安全点検を細やかに行なう。 ・危険箇所については、必要な改善を図り、教育環境整備に努める。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する